

**授業概要**

愛は文学のみならず、芸術・心理学・哲学など幅広い学問領域において、主要テーマのひとつと見なされている。文学的テーマとしての愛は古代ギリシャに起源を持ち、中世の〈洗練された愛〉を經由して、20世紀のシュルレアリスムにまで脈々と受け継がれてきた。本授業では、ヨーロッパ諸国の文学作品において、歴史や社会の観点から、愛がいかなる形で表現されてきたのかについて講義する。愛の概念を厳密に定義するため、まずは愛を理論化した著作を概観し、そのうえでヨーロッパ諸国の文学作品を断片で読み込んでいく。

**授業計画**

第1回	愛の理論化
第2回	愛の前史① カトゥルス
第3回	愛の前史② オウィディウス
第4回	放蕩と愛① ティルソ・デ・モリーナ『セビーリャの色事師と石の招客』
第5回	放蕩と愛② モリエール『ドン・ジュアン』
第6回	自殺と愛① ゲーテ『若きウェルテルの悩み』
第7回	自殺と愛② セルバンテス
第8回	〈洗練された愛〉① アル・アンダルス詩
第9回	〈洗練された愛〉② プロヴァンス詩
第10回	魔法と愛① 『トリスタンとイゾー』
第11回	魔法と愛② 『ラ・セレスティーナ』
第12回	同性愛① ジャン・コクトー『白書』
第13回	同性愛② ガブリエル・シドニー・コレット『学校のクローディーヌ』
第14回	道徳と愛① フアン・ルイス『よき愛の書』
第15回	道徳と愛② レーモン・ラディゲ『ドルジェル伯の舞踏会』
第16回	

**到達目標**

- ・愛を扱う文学作品には社会的、宗教的、歴史的制度が反映されていることが理解できる。
- ・作中人物の心理的考察を通して、文学に特有の愛にまつわる表現形態を把握することができる。

**履修上の注意**

- ・授業では、宗教や哲学の観点から愛を説明する場合が多々ある。理解できない用語や概念があっても放置せず、その場で質問をして解決することが望ましい。
- ・授業で扱うテーマは、受講生の関心により入れ替わる可能性がある。

**予習・復習**

愛にまつわるさまざまな表現形態を把握するため、配布する文学作品の断片を復習として読み直すよう心がけること。

**評価方法**

学期末レポート 80%、授業内コメント 10%、授業態度 10%

**テキスト**

授業ごとにプリントを配布する。